

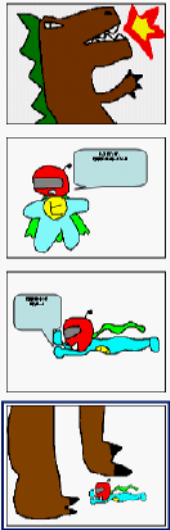


| 発表前に工夫した点、見てもらいたい点などを説明する。 | | 夫しているか。(創意工夫) |
|---|---|---|
|  |  |  |
| <p>発表を聞いている生徒は、発表者の評価をする。(相互評価) 発表を聞いた生徒から意見を聞く。 自分の発表についても評価も行う。(自己評価) 視聴生徒は発表者の評価をし、評価シートに記入する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・評価の際、よい点を見つけ評価するよう視聴生徒に指示する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他人の発表を評価シートにメモをとりながら視聴しているか。(態度) |
| <p>4 プレゼンテーションの手直しを行う</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒のよいところを取り入れてさらに完成度を高める。 ・進捗状況を把握し、必要に応じてアドバイスをする。 | |
| <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時に、プレゼンテーションの手直しの続きと本発表を行うことを伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> 「評価シート」を回収する。 | |

5. 成果

今回題材として設定した「短編ストーリー」をコンピュータを使って表現する授業では、限られた時間の中で、生徒はとても興味・関心を持って取り組んだ。特に、新しいアニメーション効果を発見したときは、当初考えていた効果をさらに発展・追加させたり、生徒間で情報交換を密に行いながら、さらに印象的なアニメーションにしようとし、そして、生徒は自分の作品の出来栄を他の生徒と比較しながら、さらにアイデアを生かしたものをつくってみたいと思った生徒も多かった。

このように一般的なプレゼンテーションの授業ではあまり興味を示さない生徒でも、このようなアニメーション効果を十分に活用することで、生徒は今まで以上にプレゼンテーションが身近になったものと思われる。